

「歩くことをあきらめない」人たちのために 最善を尽くす



(左から) マイスター・リーヒエ、大沼幸江COO

ドイツ整形靴マイスターの 技術を母体に会社設立

「ネイチャーズウォーク」は、「すべての人の歩きたいを叶える」をキャッチフレーズに、2013年に設立した会社である。14年には千葉市内に130㎡(39坪)の路面店を構え、後に千葉そごうと大宮そごうにも出店した。

ネイチャーズウォークの設立には、ドイツ整形外科靴マイスター、カーステン・リーヒエさんと現在COOである大沼幸江さんとの出会いがある。リーヒエさんは、96年にマイスター国家資格を取得後、技術指導のために来日。ここで、山スキーで足を痛めた大沼さんと出会うことになる。

リーヒエさんは10年ほど教鞭を取った後に退職。二人でドイツに渡るつもりだったが、前職が残っていた大沼さんのため、リーヒエさんはしばらく日本に残ることになった。

この間、靴店を回って技術指導に当たったが、これが大好評を取る。リーヒエさんの作った靴を履いて歩けるようになり、涙を流して喜ぶ姿を目の当たりにした大沼さんは「靴ってなんて素晴らしいんだろう」と認識を新たにしたいという。

「ドイツに帰らないで」という靴店たちの引き留めもあり、ついに整形外科靴の工房「R・I・O」が設立された。ネイチャーズウォークの母体である

義肢装具士や整形靴を作るプロ集団の店



京成千葉中央駅からも徒歩10分、JR千葉駅からバス10分ほどのところにある

事業の柱は3つ。ひとつが3つの店舗の販売事業だ。「グーテヴァール」「ストレッツウオーカー」「オルトマイスター」などの靴を置くが、既製品を販売するのみならず、そ



しゃれた舟形什器も。店内にはヒールのあるパンプス類は置かれていない



店内はウッド調の内装や什器でまとめられた、居心地のいい空間

来られます」(大沼さん)。スタッフは10人。技術者は7人で、義肢装具士が3人、神戸の三田校卒業生が3人、ゲゼレ(ドイツでマイスターの資格を得る一つの国家資格技術者)が1人。残り3人の販売スタッフも、シユー

の人の足にに応じてインソールやアウトソールを整えるなど何かしら加工させていく。グーテヴァールやオルトマイスターなどのブランドは、リーヒエさんが木型の開発を担っている。

次がメデイカル部門で、リーヒエさんと大沼さんが義肢装具士と、各地の病院に行つて患者のために装具の制作・販売を行う。

最後にR・I・Oの事業を継承した部分で、他社の技術指導を行い、出張してマイスター相談会を開催する。

「マイスター相談会は、他社の店舗ばかりでなく、当社の店舗でも行います。相談会には、脚長差がある、糖尿病のために趾を失ってしまった、足が内側にねじれてしまった、内反足など、なかなか他では扱えない難しい症状の方々がたくさん



糖尿病で趾を失ってしまった人の木型(右)と装具

「整形外科靴マイスターとして、靴本来の役割である『人の足を守る』ことに特化した仕事しかできません」

ドイツ整形外科靴の技術を汲むコンフォートショップは少なくない。売上げを取るために、ファッション性の高い靴を置かざるを得ない店もあるが、ネイチャーズウオークは医療用の靴や装具を製作することに重点を置いている。それは、同店がドイツ人整形外科靴マイスターが滞在するショップであることと無縁ではない。リーヒエさんの高い技術に惹かれた若い技術者が集まり、他社にはないプロ集団が作られたのである。リーヒエさんは、こんなふうに語っている。

足を守ることに特化した困っている人はすべて見る

「整形外科靴マイスターとして、靴本来の役割である『人の足を守る』ことに特化した仕事しかできません」

「足で困っている方はすべて見る」ことをモットーとし、装具も2〜3週間で仕上げていくというから、かなり忙しい。それもすべて、「歩くことをあきらめない」人たちのためへの努力なのだ。

▽千葉県千葉市中央区本町3-2-13

☎043・441・4149



足を見るためのスペース。椅子の高さも工夫されている